

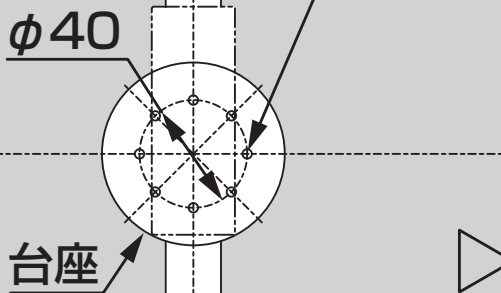
天井まで320mm
以上はなすこと

浴室コーナーまたはユニットバスジョイント部
630mm

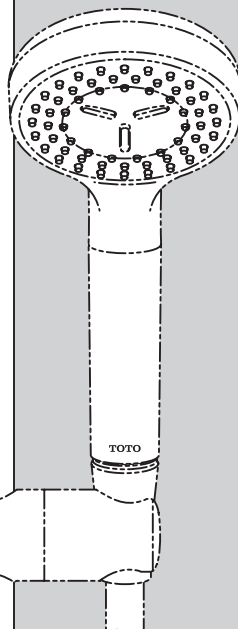
浴室コーナーまたはユニットバスジョイント部

120mm以上
はなすこと

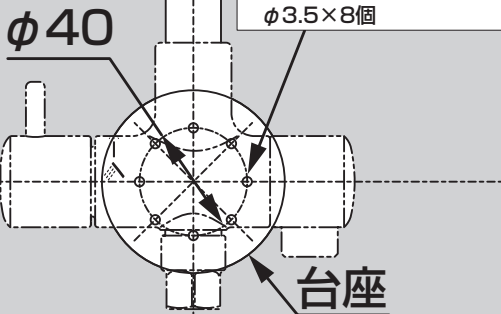
- 在来浴室の場合
木下地：φ6×4～8個
コンクリート下地：φ6×4個
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8個



浴室コーナーまたはユニットバスジョイント部



- 在来浴室の場合
木下地：φ6×4～8個
コンクリート下地：φ6×4個
- ユニットバス・システムバスの場合
φ3.5×8個



120mm以上
はなすこと

位置決めシート

同梱の「施工説明書」とあわせてご利用いただき、お客様のお好みの位置にシャワーを取り付けてください。

4-1 シャワーの位置決め

お客様とご相談のうえ、取付位置を決めてください。
取付位置の確認、および周囲の器具(鏡や照明など)との取り合いと使い勝手確認のため、
「位置決めシート」も同梱となります。
本説明書とあわせて確認いただき、位置決め・取付作業にお役立てください。
(位置決めシートのおすすめ使用方法)

- 浴室の壁に位置決めシートをあて、シャワーの寸法を確認しながら、取り付ける壁を決める。(「位置決めシート」のグレーの範囲には、壁(パネルのジョイント部)1がかららないこと、また、周囲の器具(鏡や照明など)にからないよう位置を決める) (1:ユニットバス・システムバスの場合)
- 取り付ける位置が決まったら、上記のように、1:床から1,050mm以上、2:1:から630mmの位置をけがください(3:220mm以上確保すること)
- シャワー(本体・スライドバー・オーヘッドシャワー部)を従来品に「本説明書 図4-1」参照、上記でけがいた位置に白線をあわせ、オーヘッドシャワーの可動範囲と使い勝手を確認する。

●以上の作業で取付位置が決まったら、本説明書 図4-1に使い、下穴をあける。

①下図AまたはBの範囲でシャワーの取付位置を決める。

兼用水栓の場合

洗い場専用水栓の場合

- シャワーは、水栓本体近くに取付けてください。水栓本体から離れすぎると、使い勝手が悪くなり、ホースがつかまりやすくなるおそれがありますので、事前にご確認ください。
- オーヘッドシャワーは左右に回して(黄線) お好みの位置でお使いいただけますが、周囲の照明や壁などにぶつけないようご注意ください。

●天井面から30mm以上確保してください。
●天井面との間を指を挟むおそれがあります。
●シャワー中心から距離463mm以上確保してください。
シャワー可動時に確認するおそれがあります。

4-2 シャワーの位置決め(つづき)

●取付位置は浴室コーナー部から120mm以上離してください。
切替ハンドルやハンドシャワーの扱いご注意ください。

ユニットバス・システムバスの場合、壁パネルのつなぎ目から120mm以上離してください。

【浴室用衣類乾燥機を使用する場合】
●シャワーは衣類乾燥機の温風吹出口および空気取込口から100mm以上離して取り付けてください。
-詳しくは、1.1.安全上の注意を参照してください。

③取付位置を決め、穴あけ位置を決める。

下図の範囲でお好みの高さを設定してください。

固定金具取付位置(2カ所)
L=160mm
L=200mm

次ページ 図4-4 固定金具の取り付けを参照ください。

※()は参考寸法です。使用者の身長、天井高などを考慮のうえ、取り付けてください。

5-1 固定金具の取り付け

固定金具の取付方法は取り付ける壁によって異なります。下記に従って取り付けてください。

注意

- 正しいサイズのドリルをお使いください。
下穴が大きすぎると、芯を失って正しい固定ができなくなります。また下穴が小さすぎると、タイル割れをおこすおそれがあります。
- 壁材質に応じて、適切な材質のドリルを使用してください。
- 穴あけ後は、下穴にシール材を必ず充填してください。
- 下穴に穴、壁材に応じた正しい長さのねじを同梱品よりお選びください。
- 新築に取り付ける場合は、壁裏に30mm以上の厚みのある補強材を柱または同柱に固定して、その補強材に取り付けてください。

<浴室壁材ごとの下穴径と必要数>

浴室壁材	下穴径 (mm)	深さ (mm)	穴数 (個)	取付位置	使用用途(取付)	取付位置	
在来工法浴室	木下地	φ6	20	4~8	要	固定金具	必要
		φ6	50	4	要	固定金具	必要
システムバス	樹脂壁下地	φ3.5	20	8	不要	固定金具	不要
		φ3.5	50	8	不要	固定金具	不要

※1: 固定金具1個あたり

②1: 1カ所あたり下穴数(木下地の場合)
※2: 木下地に4本以上ねじがつかないよう、現場にて調整ください。(下記)木下地の場合は、下穴に固定金具タッピンねじが4本以上つかないように本数を調整してください。

※樹脂壁材のユニットバス・システムバス(タイル・プラスチック・大理石など)には取付できません。

<在来工法浴室の場合>

①φ6mm・深さ20mmの下穴をあける。(上下とも4個)

前ページの表に使い、上下とも木下地にねじが4本以上つかないように、ねじ本数を調整してください。
タイル・モルタル部のみ下穴をあけ、木下地の事前下穴をください。(深さ20mmが目安です)

②1: あけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。
壁からはみ出した樹脂プラグは切り取ってください。

③シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。(上下2カ所)

タイルの割れを防ぐため、樹脂の詰め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。※タイが割れれば必ず交換してください。外れたりして使用される方がかさをあるおそれがあります。

5-2 固定金具の取り付け(つづき)

①φ6mm・深さ50mmの下穴をあける。(上下とも4個)

コンクリート下地の場合

②1: あけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。

③シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。(上下2カ所)

タイルの割れを防ぐため、樹脂の詰め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。※タイが割れれば必ず交換してください。外れたりして使用される方がかさをあるおそれがあります。

<ユニットバス・システムバス(樹脂壁)の場合>

①φ3.5mmの下穴をあける。(上下とも8個)

②シール材を充填したあと、固定金具を壁のように取り付ける。

ねじを空締めできないよう、樹脂の詰め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に届いて半回転以上締め込まないこと。※タイが割れれば必ず交換してください。外れたりして使用される方がかさをあるおそれがあります。